

令和 6 年 9 月 19 日  
北部地区医療提供体制協議会

# 健康おきなわ21(第3次)における糖尿病対策 及び今後のCKD対策について

沖縄県保健医療介護部健康長寿課

# 健康おきなわ21（第3次）（2024-2035）概要

## 1 計画策定の趣旨

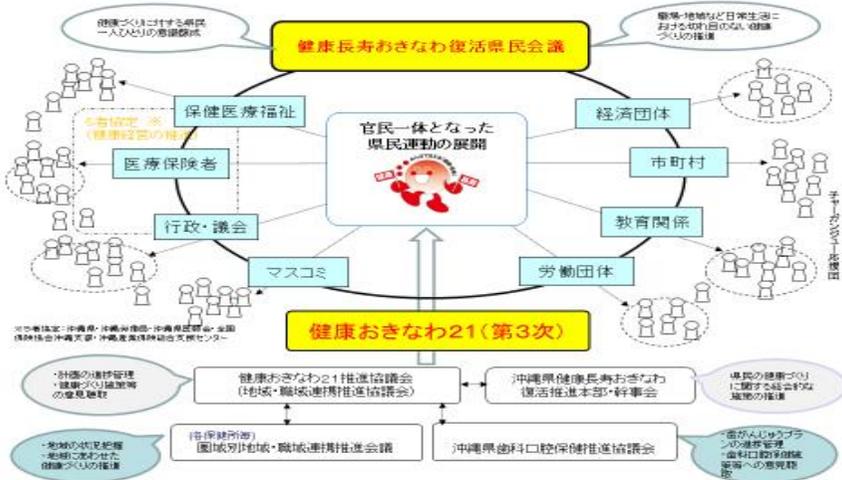
健康長寿おきなわの維持継承を目指し、県民一人ひとりが主体的に健康づくりを行い、健康状態を改善することに加え、家庭や学校、地域、職場等個人を取り巻く社会環境の質の向上を図るとともに、庁内の全部局、市町村、各種団体、関係機関等と連携し、社会全体で誰一人取り残さない健康づくりを総合的かつ持続的に推進するため、健康おきなわ21（第3次）を策定。

## 2 計画の位置づけ

- 健康増進法第8条に基づく「都道府県健康増進計画」
- 「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画・実施計画」の個別計画として、基本計画及び実施計画で掲げる施策展開を図る。
- 関連個別計画等と整合する健康づくり施策推進に関する計画。
- 県の今後の健康づくり対策の基本的な施策を示すもの。
- 市町村の健康増進計画の行政施策の指針となるもの。
- 県民、保健医療関係者及び事業者には、その自主的な活動、行動を推進する役割。
- 計画期間は、2024年から2035年までの12年間。

## 3 進行管理

- 健康おきなわ21推進協議会において、本計画の目標項目についての進捗状況を把握し、進捗管理を行う。また、健康長寿おきなわ推進本部及び健康長寿おきなわ復活県民会議版のロードマップにおいて、取組等の進捗管理を行う。
- 計画の進捗管理のため、2032年（R12）を目途に中間評価を行う。



## 4 健康おきなわ21（第3次）の主な項目

### 第1章 計画の策定にあたって

### 第2章 県民の健康の現状

人口、医療費、平均寿命、健康寿命、死亡、介護の状況等

### 第3章 沖縄県の目指す健康づくり（基本的方向）

- 1 基本理念  
「県民が健康・長寿を維持継承し、生きがいに満ちた豊かな人生を送ることが大切である」
- 2 基本的方向
  - (1) 個人の行動と健康状態の改善
  - (2) 健康を支える社会環境の質の向上
  - (3) 生涯を通じた健康づくり

### 第4章 全体目標と重点的に取り組む事項

- 1 全体目標
  - (1) 平均寿命の延伸
  - (2) 健康寿命の延伸
  - (3) 早世の予防
  - (4) 健康寿命の地域格差の縮小
- 2 重点的に取り組む事項
  - (1) 肥満の改善
  - (2) 働き盛り世代の健康づくり
  - (3) 市町村等との連携強化

### 第5章 施策の展開と目標

#### 1 個人の行動と健康状態の改善

##### (1) 生活習慣病の発症予防と重症化予防

(がん、循環器、**糖尿病**、肝疾患、COPD)

##### (2) 生活習慣の改善

(食生活、身体活動・運動、休養・こころの健康、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康)

#### 2 健康を支える社会環境の質の向上

- (1) 社会参加や地域の人々とのつながりの強化促進
- (2) 自然に健康的な行動が取ることができる環境づくり
- (3) 多様な主体による健康づくりに誰もがアクセスできる基盤整備

#### 3 生涯を通じた健康づくり

- (1) こども（胎児期・乳幼児期・学齢期）
- (2) 働き盛り（成人期）
- (3) 高齢者（高齢期）

### 第6章 計画の推進体制

- 1 計画の推進体制
- 2 計画の進捗管理

健康おきなわ21  
— 第3次 —



# 健康おきなわ21（第3次）第5章1（1）個人の行動と健康状態の改善 糖尿病

■は県独自の設定項目

## 目標項目、指標

目標項目	指標		ベースライン	目標値		目標値の考え方
				前期(R10)	後期(R14)	
糖尿病有病者の増加抑制 (増加幅を減らす)	HbA1c (NGSP値) 6.5%以上の者の割合	男性	11.0% (R2)	13.0%	全国平均並みに改善※5 (R2参考) 男性9.5% 女性4.7%	沖縄県医療計画の目標値
		女性	6.1% (R2)	7.0%		
血糖値コントロール不良者の減少	HbA1c (NGSP値) 8.0%以上の者の割合	男性	2.5% (R2)	1.7%	男女とも 1%	
		女性	1.2% (R2)	1.1%		
治療継続者の増加	治療継続者の割合	男性	61.6% (R3)	68.3%	男女とも 75%	健康日本21（第三次）の目標値
		女性	53.7% (R3)	64.4%		
透析導入患者の減少	糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者数		170人 (R4)	150人	130人	健康日本21（第三次）の目標値算出方法に準じて算出
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の減少（再掲）	メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	男性	51.6% (R3)	現状より減少	評価時点の全国値より減少 (R3参考) 男性43.1% 女性13.0%	全国並に改善させる
		女性	18.9% (R3)			
特定健康診査の受診率の向上（再掲）	特定健康診査の受診率		50.9% (R3)	70%	増加※6	沖縄県医療費適正化計画の目標値
特定保健指導の実施率の向上（再掲）	特定保健指導の実施率		33.6% (R3)	45%	増加※6	

### 県民の目指す姿（望ましい姿）

県民一人ひとりが自分に合った食事の量や運動の量を知り、適正体重を維持するような生活習慣を実践している。年に一度は健診を受診し、必要に応じて保健指導や適切な治療を受け、重症化を予防している。

### 現状（省略）

### 主な課題（抜粋）

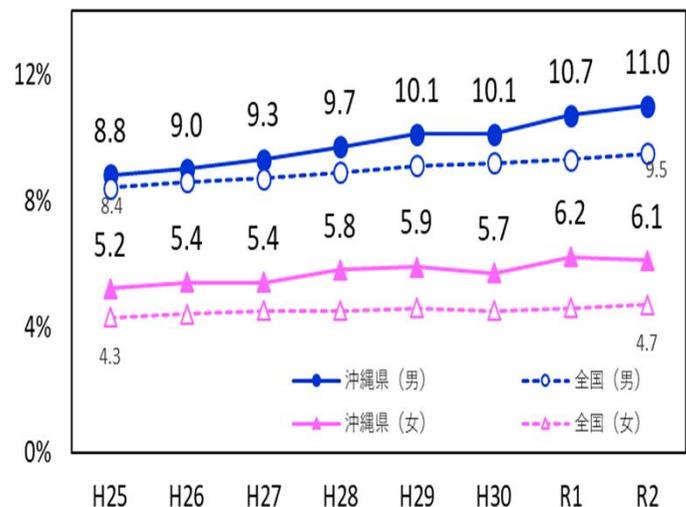
- ・メタボ該当者・予備群の割合を減少させる
- ・特定健診、特定保健指導の受診率を向上させる
- ・糖尿病治療継続者を増加させ血糖コントロール不良者を減少させる

### 施策の展開（抜粋）

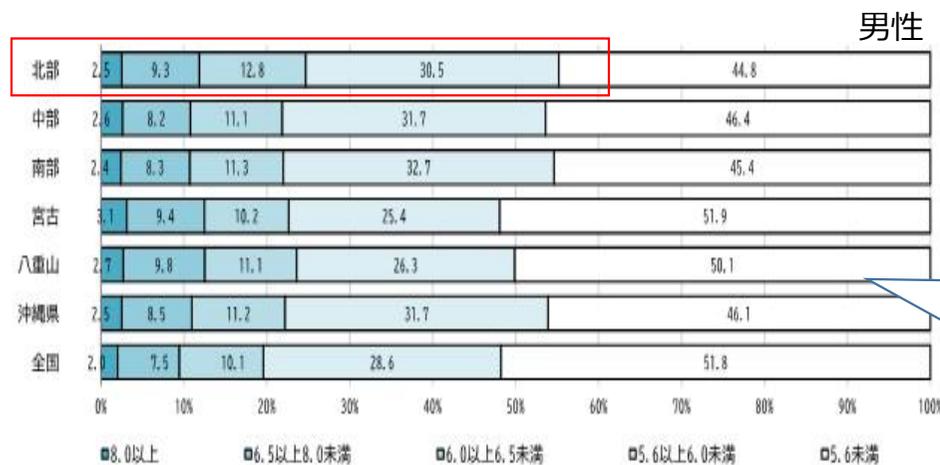
- ・メタボリックシンドロームに対する普及啓発
- ・健康診断等の受診勧奨
- ・特定健診受診率向上、特定保健指導実施率向上に関する取組推進
- ・未受診者や未治療者対策
- ・沖縄県医療計画や沖縄県糖尿病性腎症重症化予防プログラムによる適切な治療の開始、継続支援
- ・二次医療圏ごとの地域医療連携体制の構築を推進するとともに各団体の取組と協力、推進

# HbA1c6.5%mg/dl以上、8.0%mg/dl以上の者の割合

## HbA1c6.5%mg/dl以上

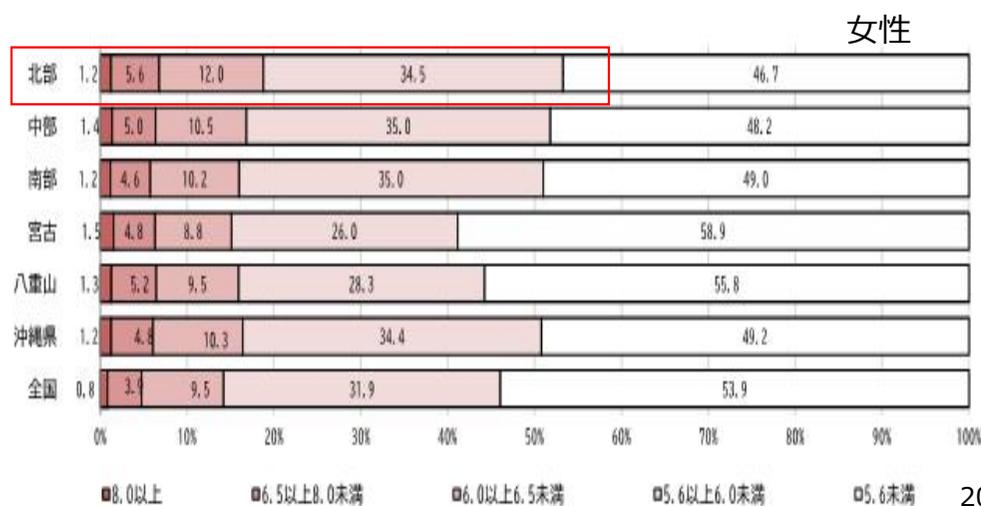
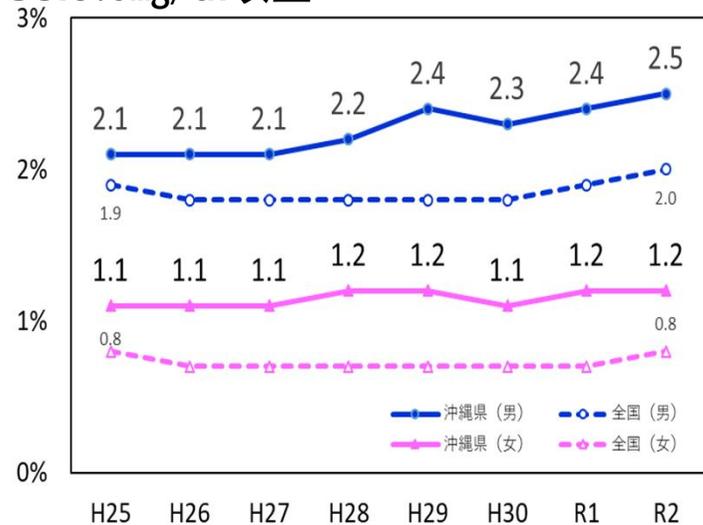


## HbA1c区分割合 (2021年,二次医療圏)



男女とも北部圏域で県平均より高い

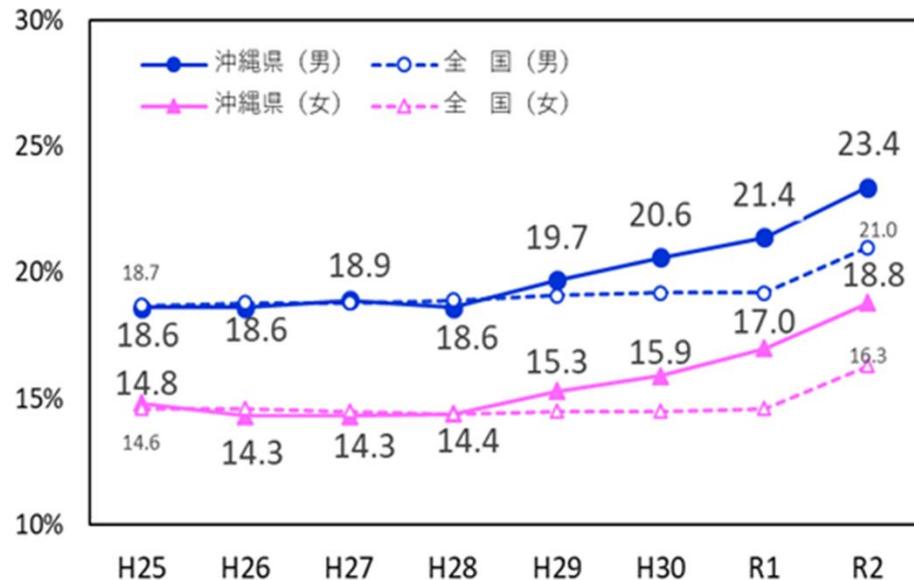
## HbA1c8.0%mg/dl以上



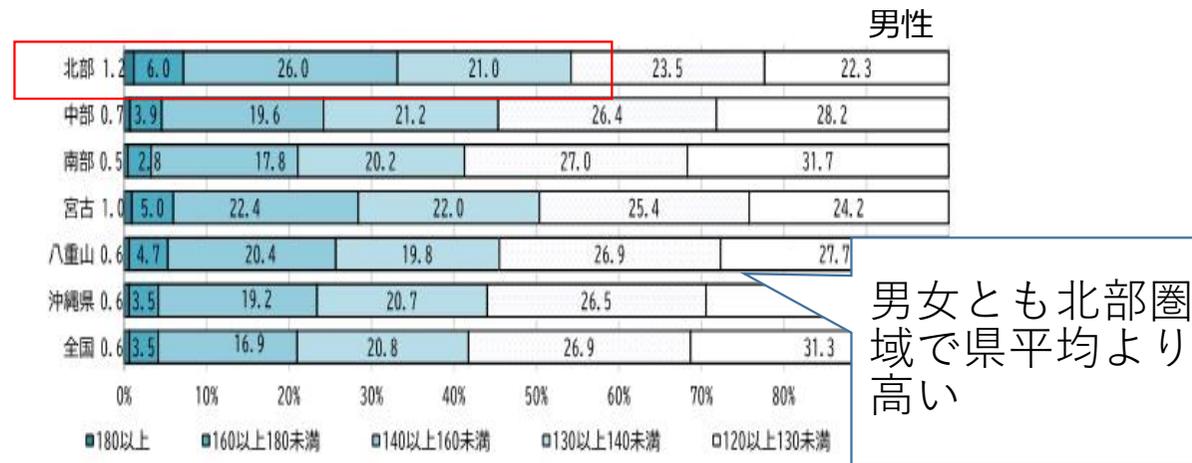
2021年NDBオープンデータ

# 収縮期血圧140mmHg以上の割合

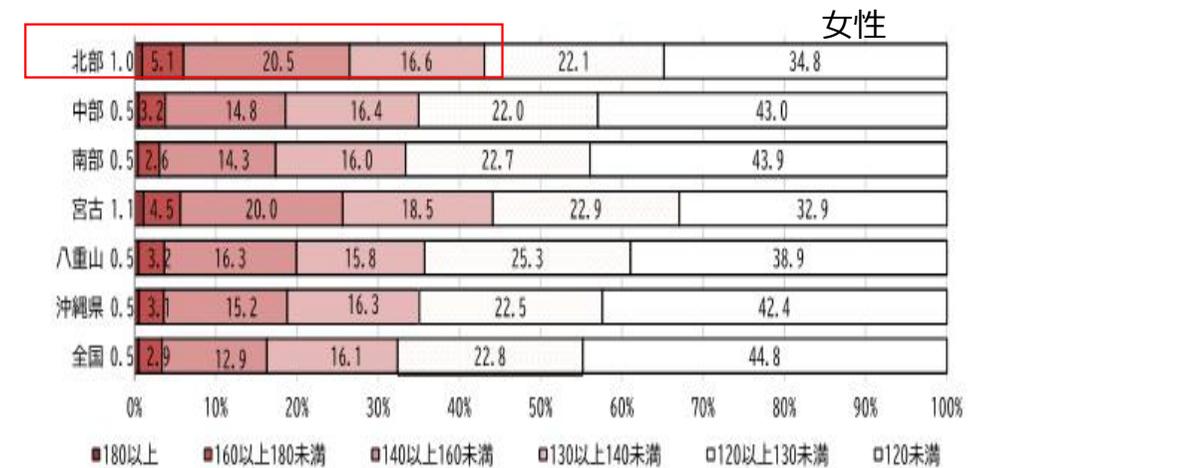
## 血圧区分割合（2021年,二次医療圏）



収縮期血圧が140mmHg以上の者の割合,降圧薬内服中を含む, 性別, 40-74歳

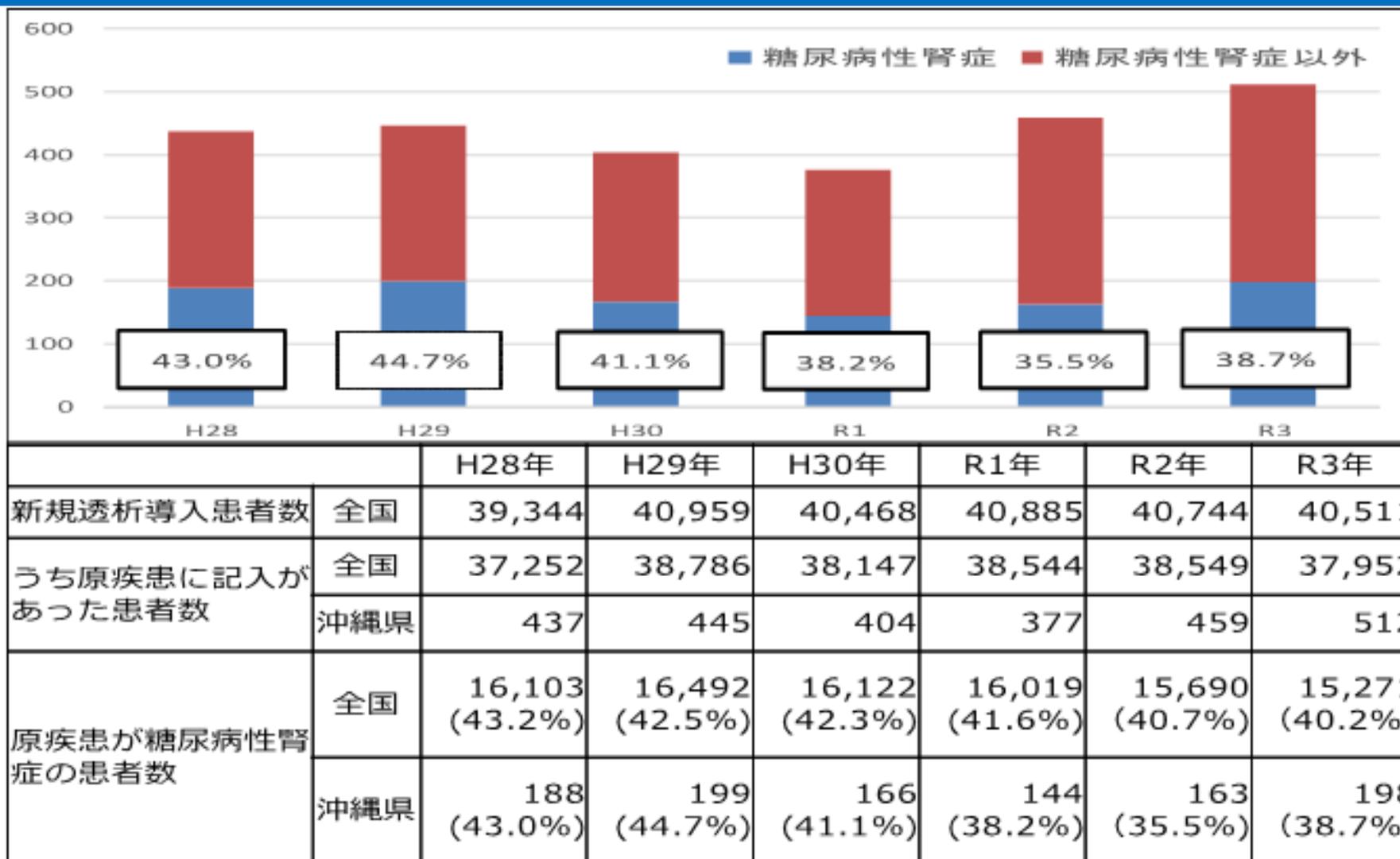


男女とも北部圏域で県平均より高い



2021年NDBオープンデータ

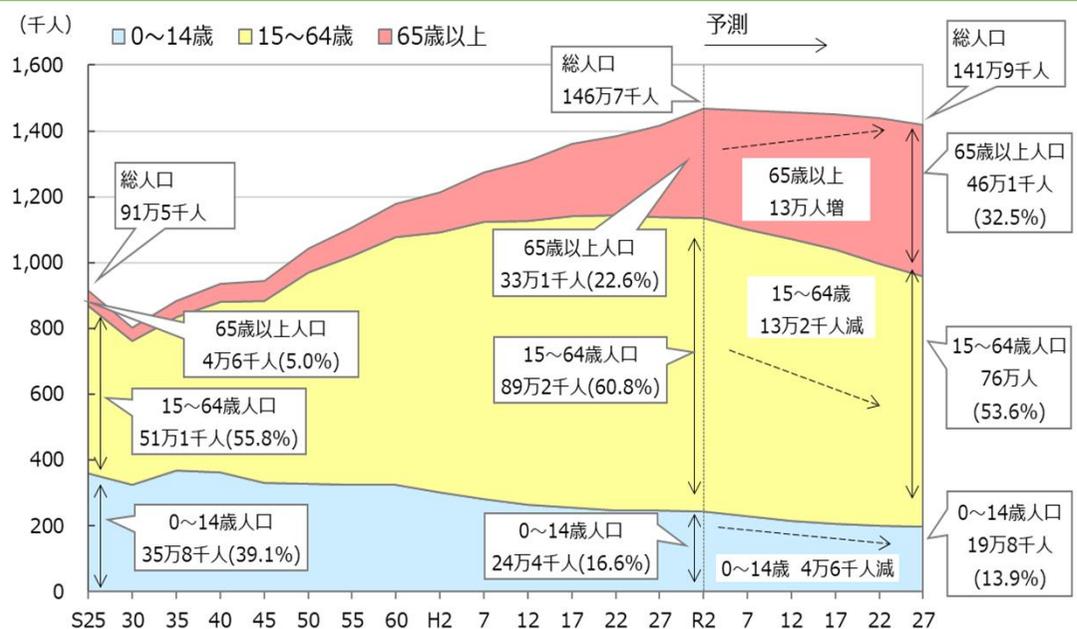
# 沖縄県における新規透析導入患者数の推移



(出典) 第8次沖縄県医療計画

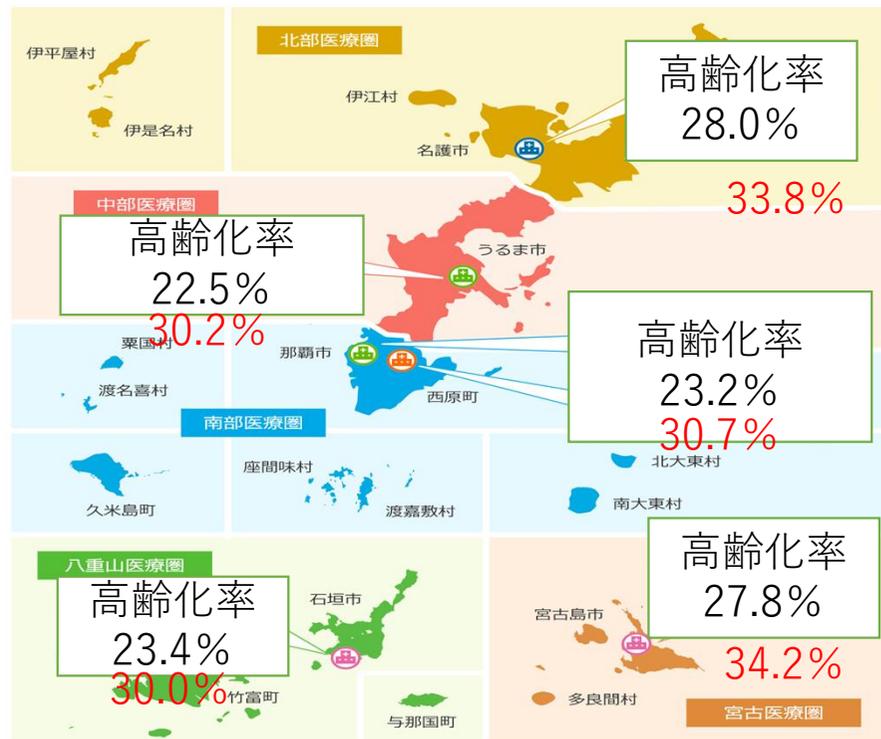
# 沖縄県の人口推移と将来予測、高齢化率

沖縄県の人口は、5年ごとに見ると令和2年の約146万7千人をピークにそれ以降減少に転じる。  
 年齢構成別で見ると、年少人口(0~14歳)及び生産年齢人口(15~64歳)は減少していく一方、高齢者人口(65歳以上)は増加し続ける見込み。



(出典) 総務省統計局「国勢調査報告」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」

沖縄県高齢化率23.5%(R5.10.1時点)  
**30.8%** (2040年/令和22年将来予測)



(出典) 図：おきなわがん情報ネットみるん・しるん  
 データ：第9期沖縄県高齢者保健福祉計画、地域医療情報システム

## CKD対策事業の背景

- 健康寿命の延伸及び医療提供体制や社会保障費の安定のために腎臓病対策は重要である。
- 慢性透析患者数は増加傾向にある。糖尿病以外を原疾患とする部分も含めて包括的にCKD対策を進めていく必要があるが、市町村の取組状況に差がある状況である。

# 慢性腎臓病(CKD)特別対策事業

## 【背景】

慢性腎臓病(CKD)は、生命や生活の質に重大な影響を与える重篤な疾患であるが、腎機能異常が軽度であれば、適切な治療を行うことにより進行を予防することが可能である。しかし、CKDに対する社会的な認知度は低く、腎機能異常に気づいていない潜在的なCKD患者が多数存在すると推測され、医療現場においても見過ごされがちである。そこで、地域における講演会等の開催や医療関係者を対象とした研修等を実施することにより、広くCKDに関する正しい知識の普及、CKD対策に必要な人材の育成等を図る必要がある。

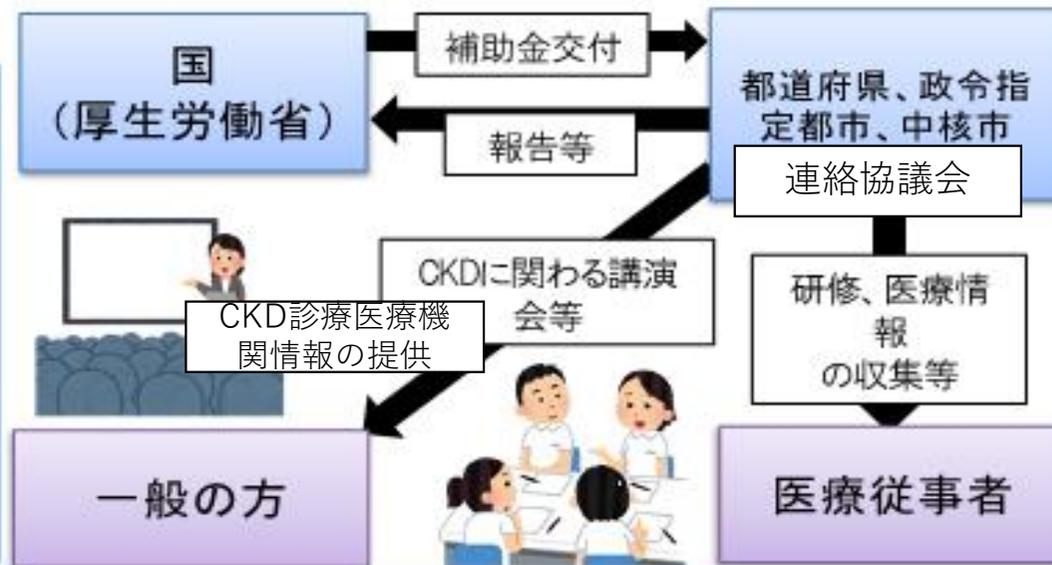
## 【事業スキーム(イメージ)】

### 【事業内容】

- ①患者等一般向け講演会等の開催
- ②医療関係者向け研修会の実施
- ③CKD診療に関わる医療機関情報の収集と提供
- ④CKDの普及啓発
- ⑤事業実施の評価

【補助率】 1/2

【補助先】 都道府県、政令指定都市、中核市



腎疾患対策検討会報告書(平成30年7月)に係る取組の中間評価と今後の取組について(令和5年10月)

## 【課題】

慢性腎臓病(CKD)の認知度が低い、医療機関間の連携不足、一部の評価指標の把握が困難

## 【更に推進すべき主な事項】

- ①普及啓発
- ②地域における医療提供体制の整備
- ③診療水準の向上
- ④人材育成
- ⑤研究開発の推進